

脳血流シンチについて

～物忘れや脳の病気が気になったら～

脳血流シンチとは、脳の血流を反映する性質をもったごく微量の放射線（ガンマ線）を放出する放射性医薬品（アイソトープ）を静脈注射して体内に投与し、アイソトープの脳内での分布や集積状態を観察することで、脳機能の悪い部分を見つけ出す方法です。

この検査では「ガンマカメラ」と呼ばれる装置を用いて、脳内に集積したアイソトープから放出される放射線を撮影します。得られた画像を元に、断層画像（SPECT）を作成したり、3D-SSP解析（後述）を行ったりします。

対象疾患

脳血管障害（脳出血・脳梗塞など）、認知症（アルツハイマー病など）、てんかん、その他脳神経疾患、他

検査を受けるための準備

食事制限など、特に何もありません

検査の手順

検査に使用する放射性医薬品を静脈注射します。

薬が脳に集まるまで約15分程度廊下でお待ちいただきます。

（検査時間が長いので、御手洗を済ませておいてください。）

撮影の時に、メガネ、ヘアピン、補聴器などは外していただきます。

検査用ベッドに横になっていただき、頭部を固定して撮影を行います。

検出器が頭の周りをゆっくり回りながら、撮影していきます。

（約30分～40分かかります）

特に大きな音もしません。リラックスして横になっていてください。



被爆の心配は？

検査薬に含まれる放射線の量は微量で、半減期（寿命のようなもの）も短く、体内で代謝されたものは、速やかに尿として体外に排泄されますので、被爆については、あまり心配する必要はありません。また、副作用もほとんどありません。

3D-SSP解析って？

患者様から得られた断層画像（SPECT）を解剖学的に標準化（大きさや形を正規化する）した後、年代別の標準的な血流分布（コントロールデータベース）と比較を行い、疾患による脳血流の低下、上昇部位を変化の大きさを表すZ-scoreを用いて客観的に画像表示する解析方法です。
特に、早期のアルツハイマー型認知症の診断に有用です。

